

北方町文化財報告書第13集

はやひのみね

# 速日峰地区遺跡 VII

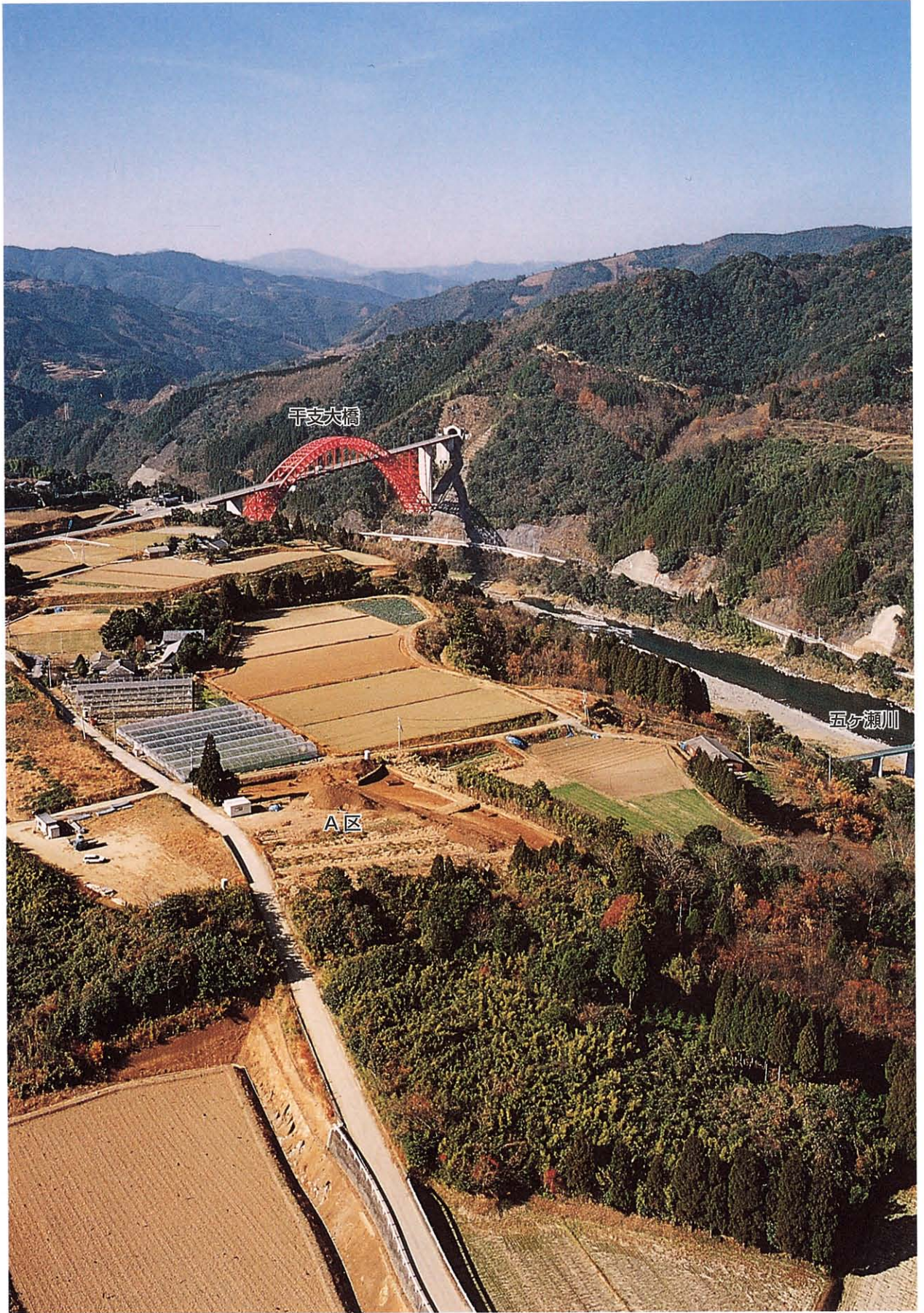
平成10年度県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書

---



1999年3月

宮崎県東臼杵郡北方町教育委員会



1. 速日峰地区遺跡A区遠景（北東より）



2.速日峰地区遺跡B区遠景（北西より）

# 序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しては深い御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

北方町教育委員会では、東白杵農林振興局の委託を受けて平成2年度から早中・<sup>はやなか</sup>早下地区内に所在する速日峰地区遺跡の発掘調査を行っています。今年度は、<sup>はやしも</sup>早中・早下地区工事に伴う2ヶ所を調査致しました。本書はその概要報告書であります。

調査の結果、古墳時代の住居跡をはじめ各時代の土器や石器・陶磁器・古銭等を多数発見することができ、当時の人々の暮らしやその地域での文化の形成過程を知る上で貴重な資料を得ることができました。

本書の刊行を通しまして、こうした地域の文化財に対する理解と認識がますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が文化財に対する認識や理解のため、研究の資料として活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査に従事していただきました町民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました先生方、ならびに速日峰土地改良区など地元の皆様に対し、こころより厚く御礼申し上げます。

平成11年3月31日

北方町教育委員会

教育長 河野達也

# 例 言

1. 本書は、速日峰地区県営圃場整備事業に伴い平成10年9月1日より平成11年3月19日まで実施した埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。

2. 本調査は、東臼杵農林振興局の委託を受けて、北方町教育委員会が実施した。

## 3. 調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査委託	東臼杵農林振興局	局	長	千坂巳喜雄
調査受託	北方町	町	長	佐藤嘉紘
調査主体	北方町教育委員会	教育	長	河野達也
調査総括		教育次長兼社会教育課長		木村重穂
事務担当		社会教育課長補佐		柳田実
調査担当		文化財係長		小野信彦
調査指導	宮崎県文化課			

調査協力（順不同）

宮崎県東臼杵農林振興局農地整備課、宮崎県文化課埋蔵文化財担当者各位、宮崎縣市町村埋蔵文化財担当者各位、速日峰土地改良区及び地元関係各位、宮崎県農業開発公社。

4. 現地の実測図は小野信彦・佐藤さみえ・原田洋子・橋本継美・甲斐美智代（北方町）、柳田裕三（別府大学）が行った。

5. 遺溝・遺物は小野が撮影し、空中写真については（株）スカイサーベイに委託した。

6. 本書に使用した略号は以下の通りである。

S A：竪穴住居跡    S B：掘立柱建物    S C：土坑    S E：溝状遺構

7. 本書に使用したレベルは海拔高で、方位は磁北で示した。

8. 本書の執筆・編集は小野が行った。

9. 出土遺物や写真・図面については北方町教育委員会で保管している。

# 目次

## 本文目次

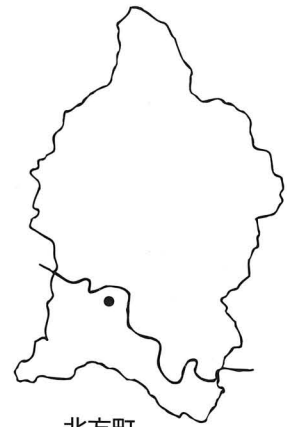
はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 遺跡の位置と環境	1
調査の内容	3
1. 調査の概要	3
2. 基本層序	5
3. 遺構と遺物	6
おわりに	11
報告書抄録	12

## 挿図目次

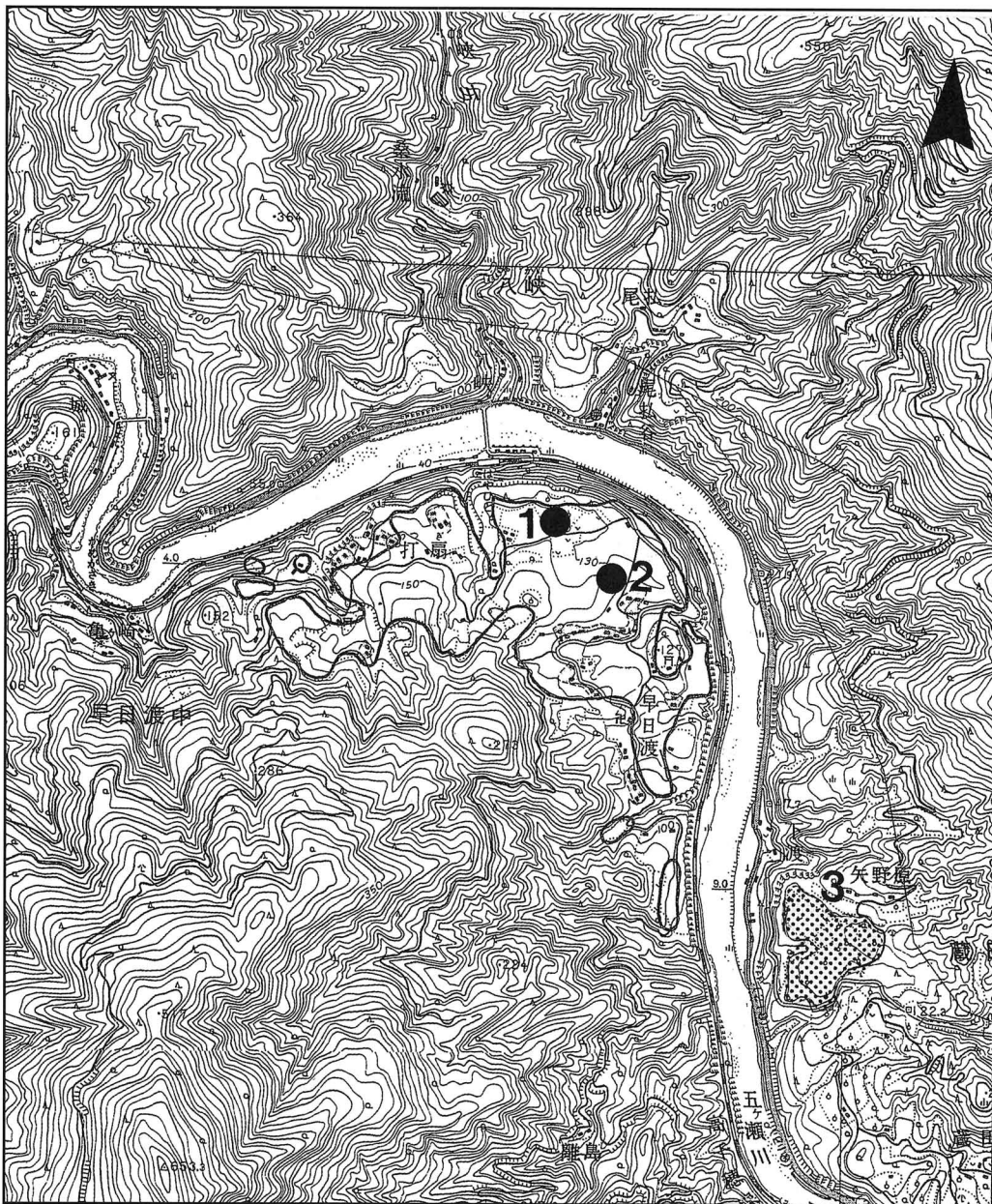
1. 速日峰地区遺跡A区遠景（北東より）	巻頭カラー1
2. 速日峰地区遺跡B区遠景（北西より）	巻頭カラー2
3. 遺跡位置図（1/25,000）	0
4. 調査区位置図（1/5,000）	2
5. A区空中写真（上が西）調査区遠景	3
6. B区空中写真1（上が西）	4
7. B区空中写真2（上が西）	4
8. B区空中写真3（上が西）	5
9. 土層写真（B区西端北壁）	5
10. 旧石器時代遺物出土状況（北東より）	6
11. 縄文時代早期遺物出土状況（北西より）	6
12. B区出土遺物	6
13. A区出土遺物	6
14. 遺構一覧表	7
15. B区住居跡群（上が西）	7
16. 1号住居跡（上が南西）	7
17. 2号住居跡（上が西）	7
18. 3号住居跡（上が西）	8
19. 3号住居跡出土石器	8
20. 4号住居跡（東より）	8
21. 5号住居跡（上が西）	8
22. 6号住居跡（上が西）	8
23. 7号住居跡（上が西）	8
24. 8・9号住居跡（上が西）	9
25. 8・9号住居跡（東より）	9
26. 8号住居跡（上が西）	9
27. 9号住居跡（上が西）	9
28. 10号住居跡（上が西）	9
29. 10号住居跡（東より）	9
30. 1号土坑（西より）	10
31. 2号土坑（北東より）	10
32. 焼土（南東より）	10
33. 1号溝状遺構（北より）	10
34. 中近世出土遺物	10
35. 発掘調査の1コマ	13



宮崎県



北方町



1. 速日峰地区遺跡A区
2. 速日峰地区遺跡B区
3. 矢野原遺跡  
矢野原第2遺跡

3. 遺跡位置図(1/25,000)

# I.はじめに

## 1. 調査に至る経緯

宮崎県東臼杵農林振興局では、昨年度に引き続き、早中・早下地区での圃場整備事業を実施するために、北方町教育委員会に工事予定区内の埋蔵文化財の有無についての照会を行った。工事予定区内については、昨年度の調査区に隣接することから遺跡の存在が予想されたため、工事によって影響を受ける部分の記録保存のための発掘調査を実施することになった。

調査は、宮崎県東臼杵農林振興局の委託を受け、北方町教育委員会が主体となって実施した。現場での発掘調査は平成10年9月1日から平成11年2月10日にかけて行い、その後引き続き整理調査を行った。なお、本報告書の作成は平成11年度以降に実施することになった。

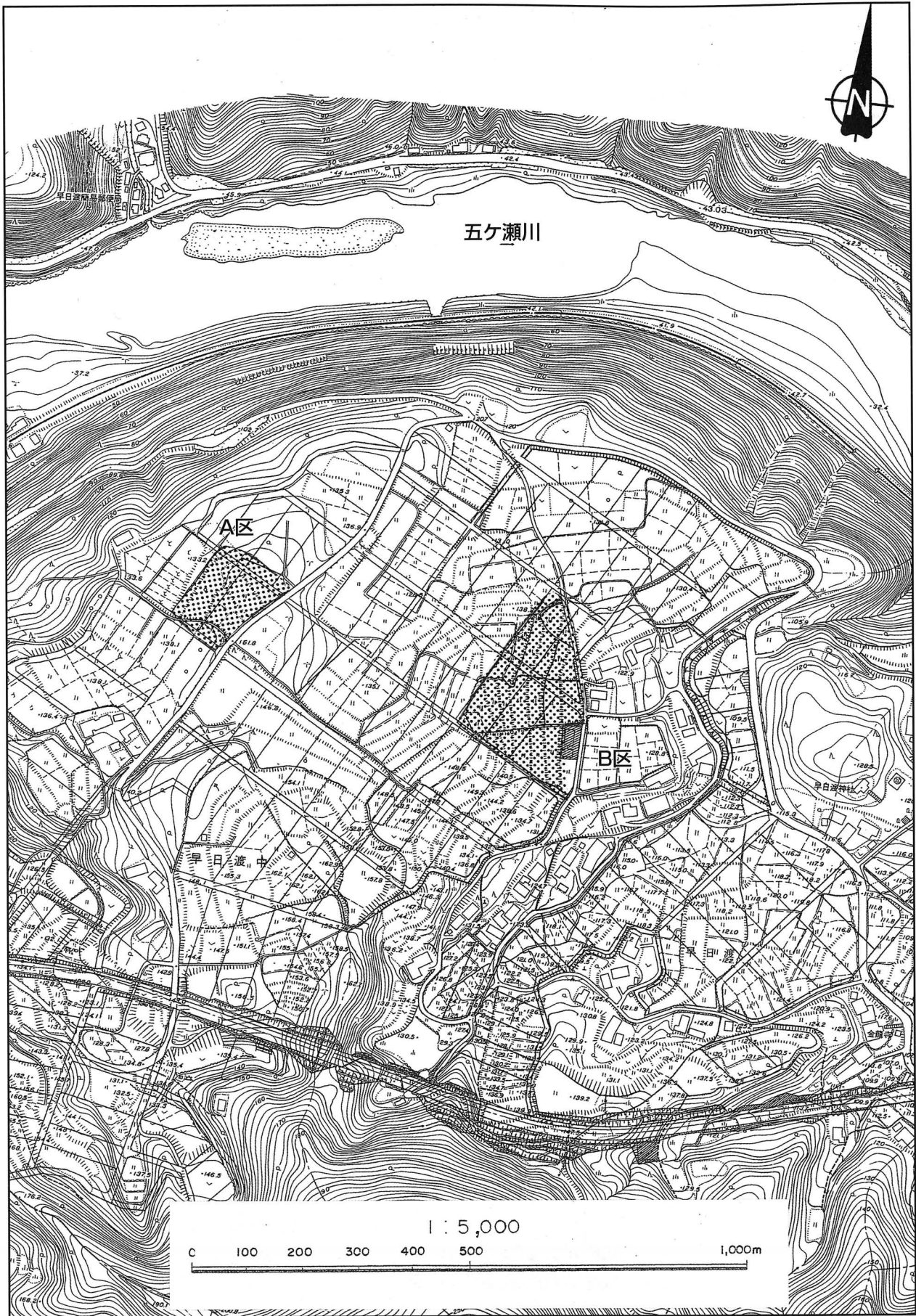
## 2. 遺跡の位置と環境

速日峰地区遺跡は、北方町巳早日渡中（早中）・早日渡下（早下）で行われている圃場整備事業によって発掘調査された遺跡の総称である。

本遺跡が所在する北方町は、宮崎県の北部に位置し、東は延岡市、南は門川町・北郷村、西は西臼杵郡日之影町、北は北川町の1市4町村と境を接する。町の南部を東西15km、南北23km余りの町域を占めて五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m～1,600m級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。南部の五ヶ瀬川流域や曾木川流域には阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、大部分の遺跡が集中する。周辺の遺跡について概観する。旧石器時代では、五ヶ瀬川を挟んだ対岸の矢野原遺跡で、A T層上位より礫群の外、ナイフ形石器や剥片尖頭器を含め約3,000点にも及ぶ遺物が出土している。また、A T層下位では、数点のスクレイパー類と石核、剥片類が出土している。石材は水晶、チャート、流紋岩、砂岩等である。隣接する矢野原第2遺跡もA T層を挟んで、その上下から遺物が出土している。速日峰地区遺跡では、若干の遺物が散見される程度である。

縄文時代は、矢野原遺跡・矢野原第2遺跡で、草創期から手向山式直前までが充実しており、速日峰地区遺跡では早・後・晩期の出土例が多い。遺構では、礫群・集石遺構等が検出されている。弥生時代から古墳時代にかけては、矢野原第2遺跡で古墳時代後期の竪穴住居跡が検出され、半面に自然面を有する打製石包丁が出土している。また、矢野原遺跡・矢野原第2遺跡の谷を挟んだ南側の丘陵上に位置する蔵田遺跡では、古墳時代後期が1軒検出され、東側の一角で磨製石鏃の未成品が45個ほど見つかり、工房の可能性が指摘されている。速日峰地区遺跡では、平成2年度からの調査で、50軒近い竪穴住居跡が検出されているが、その多くは切り合いもなく、数軒（1～5、6軒）まとまる程度である。しかも、狭少な尾根の端部や斜面に営まれているものもあり、山間部における集落形態を考える上で注目される。矢野原第2遺跡では、古墳時代後期の箱式石棺が7基程検出され、その内の1基からは、鉄刀と鉄鏃が各1点ずつ出土している。古代については不明である。中近世になると、速日峰地区遺跡で石塔群や祭祀遺構が検出されている。祭祀遺構より、陶磁器・明銭・石臼片等が出土している。





4. 調査区位置図(1/5,000)

## Ⅱ.調査の内容

### 1. 調査の概要

調査は、時期的な問題もあり、遺構に影響を受けると考えられる部分についてのみ実施した。調査面積は約8,000㎡である。調査区は便宜上、A区とB区に分けたが、工事の都合上B区から先に調査を行った。

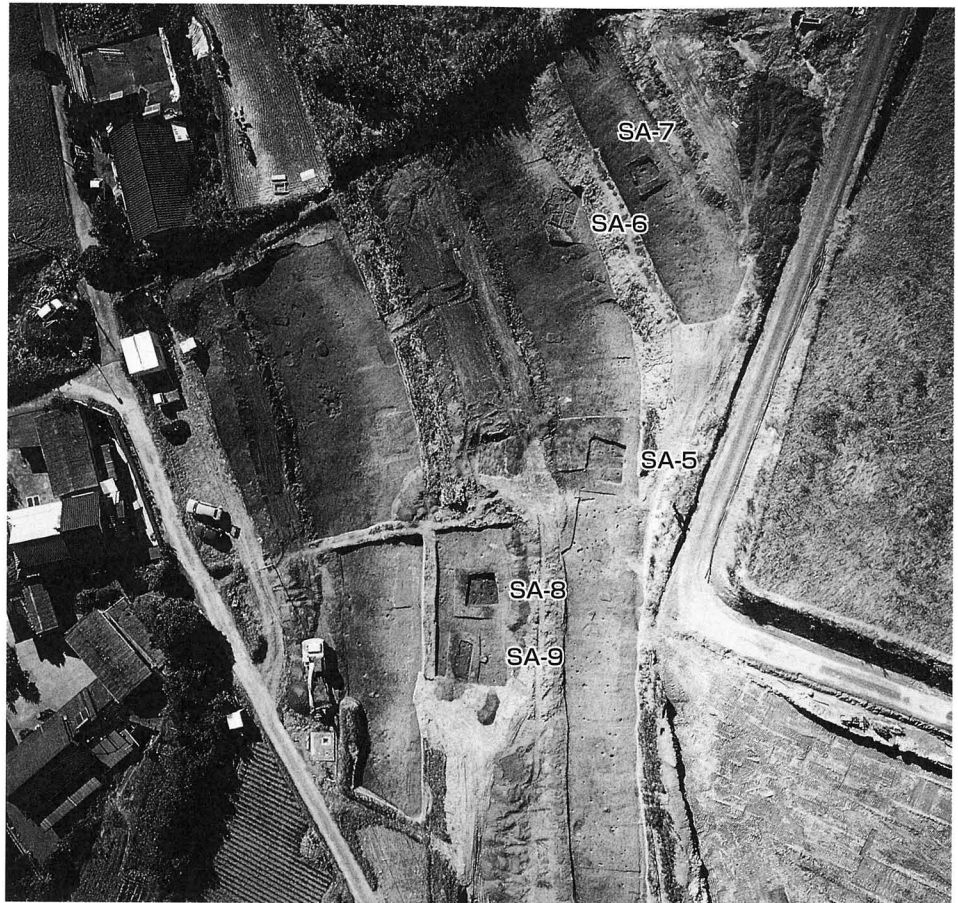
(4.調査区位置図参照)

当地域はかなりな急傾斜地であり、過去の造成により遺構の存在が危ぶまれたが、予想に反して旧地形と共にかかなり良好な状態で保存されていた。遺構面は、水田面から20～40cmの深さで検出した。重機でⅠ～Ⅳ層まで除去し、人力でⅥ層（アカホヤ層）上面まで掘り下げ、遺構検出を行った。また、一部アカホヤ層を掘り下げて縄文時代早期と旧石器時代の遺物包含層の確認を行ったが、遺物量は少ない。

今回検出された遺構は、A区で土坑2基（時期は不明）、B区で竪穴住居跡10軒、溝状遺構3基、柱穴群、焼土等である。各遺構については、5～8の空中写真と14の遺構一覧表に示すとおりである。詳細については、本報告で改めて行う予定である。



5. 空中写真（上が西）



6. B区空中写真1 (上が西)



6. B区空中写真2 (上が西)



8. B区空中写真3 (上が西)

## 2. 基本層序

基本層序は以下の通りである。

I層…表土層若しくは耕作土 (約20cm)

II層…床土 (約10cm)

III層…埋土 (約20cm～50cm)

IV層…茶褐色土層 (約20cm)

V層…黒色土層。パサつく。(約30cm) 上部より主に縄文時代晩期の遺物や須恵器・陶磁器等の遺物が出土。

VI層…アカホヤ層 (約20cm)

VII層…黒褐色土層。(約20cm) やや粘質。縄文時代早期の遺構と遺物が出土。

VIII層…黄褐色土層。(約20cm) 粘質。若干の遺物が出土。

IX層…A T層 (約20cm)

X層…黒褐色土層。(約20cm～50cm) やや粘質。遺物なし。

XI層…黄茶褐色土層。粘質。小砂利を含む。

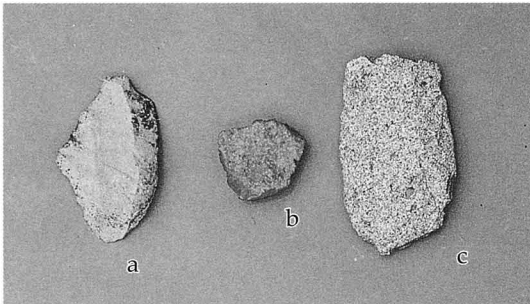


9. 土層写真 (B区西端北壁)

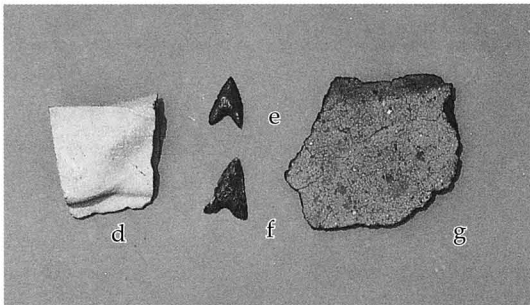
### 3. 遺構と遺物

#### ① 旧石器時代・縄文時代

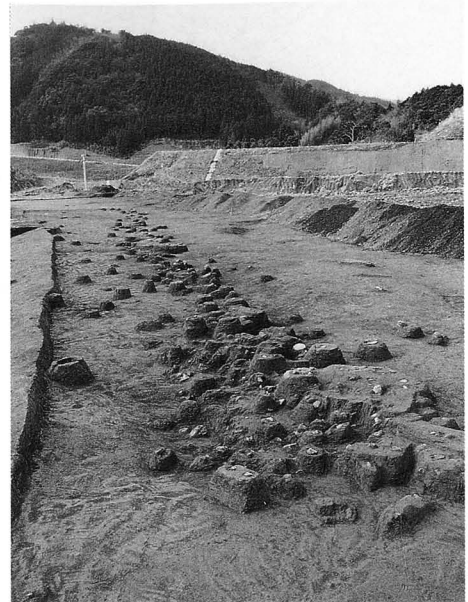
A区の西端とB区で、旧石器時代・縄文時代早期の包含層を確認した。遺物は少ない。aは使用痕を有する流紋岩製の剥片である。背部に自然面が残る。bとgは無文の縄文土器である。bはやや厚手である。cは砂岩製の打製石斧、dは流紋岩製の剥片である。eとfはチャート製の石鏃である。



12. B区出土遺物



12. A区出土遺物



10. 旧石器時代遺物出土状況（北東より）



11. 縄文時代早期遺物出土状況（北西より）

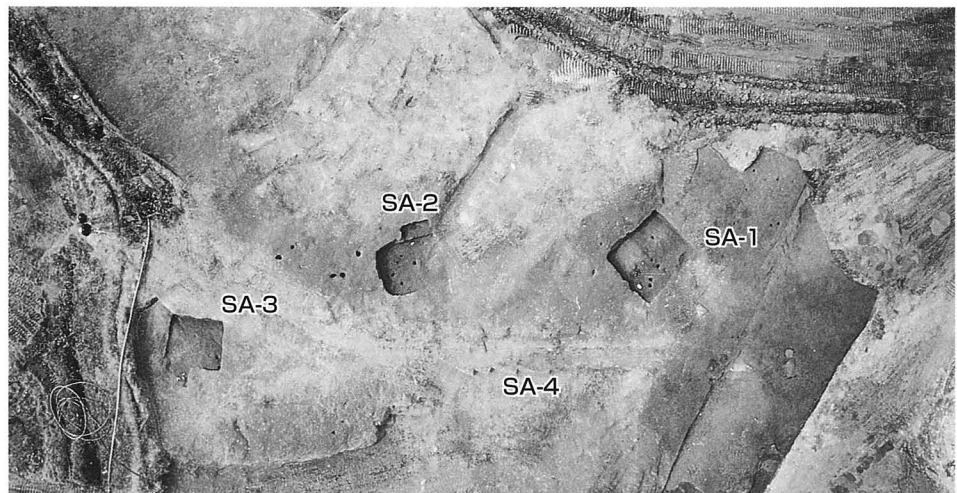
#### ② 弥生時代～古墳時代

##### 竪穴住居跡

竪穴住居跡はA区で10軒検出されている。詳細については、14. 遺構一覧表を参照されたい。張出部がつく竪穴住居跡を除いてほぼ平面形プランを呈する。床面は平坦面をなし、貼床は一部を除き認められない。支柱穴は2号住居を除いて4本で、床面からの深さは平均30cm前後である。柱穴の並びが壁に平行でなく、角度がややずれている。(2・5・6・7号) 付属施設にはベッド状遺構、焼土、土坑等がある。3号住居跡には、貼床の下に土坑が確認された。また、張出部には一部強くしまった床が残り、棒状の石器が出土している。作業部屋のような性格が考えられる。焼土はいずれも推積が5cm前後と浅く、明確な掘り込みを持たない。土坑よりの出土遺物は少なく若干の土器片が出土したのみであった。土坑内に焼土・炭化物ともに認められない。出土遺物には須恵器蓋杯、高杯・甕などの土器類、磨石・叩き石などの石器類がある。

遺構名	支柱穴	平面形	規模				内部施設						備考
			長軸m	短軸m	深さm	面積	焼土	炭化物	土坑	貼床	ベッド	その他	
1号竪穴住居跡	4	方形	4,6	4,3	0,6	9,8	○	○	○				
2号竪穴住居跡	4	方形	4,1	(3,9)	0,6	(17,8)	○			○		張出	1/4削平、面積は張出を含む
3号竪穴住居跡	4	方形	4,0	3,1	0,6	14,3		○	○	○		張出	床下に土坑、面積は張出を含む
4号竪穴住居跡		方形(?)			0,15								コーナーのみ検出
5号竪穴住居跡	4	方形	4,9	4,5	0,6	21,0	○	○	○	○	○		
6号竪穴住居跡	4	方形	4,5	3,9	0,1	17,5		○	○	○	○(?)		西側壁際に溝
7号竪穴住居跡	4	方形	2,8	2,6	0,37	7,3							
8号竪穴住居跡	4	方形	4,2	4,1	0,74	17,2	○				○		
9号竪穴住居跡		方形(?)	4,3		0,25						○		南半分は削平、北側壁際に溝
10号竪穴住居跡	4	方形	4,6		0,96		○	○	○		○		道路部分未調査
1号土坑		不定形	2,3	1,4	0,1		○						一部攪乱
2号土坑		不定形	2,1	0,6	1,0		○						一部攪乱、斜下方に掘り込む

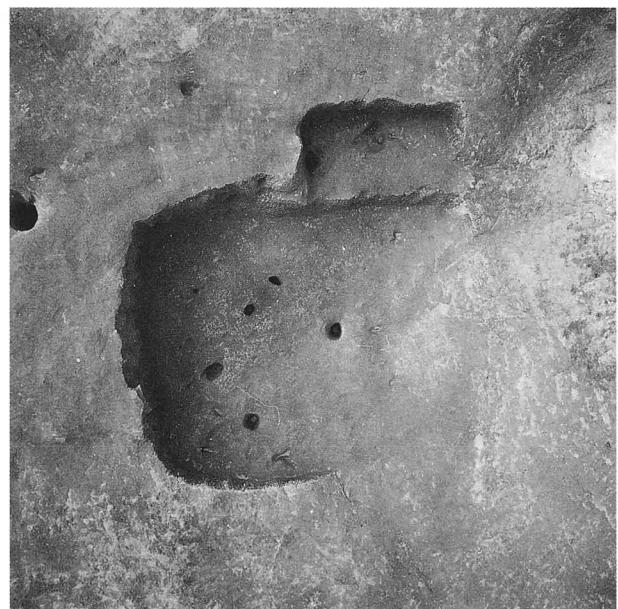
14. 遺構一覧表



15. B区住居跡群 (上が西)



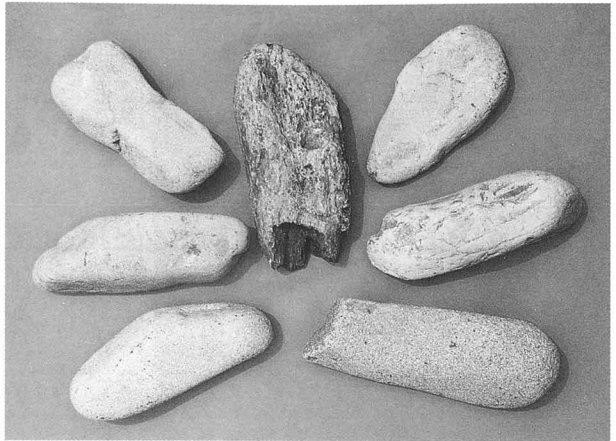
16. 1号住居跡 (上が南西)



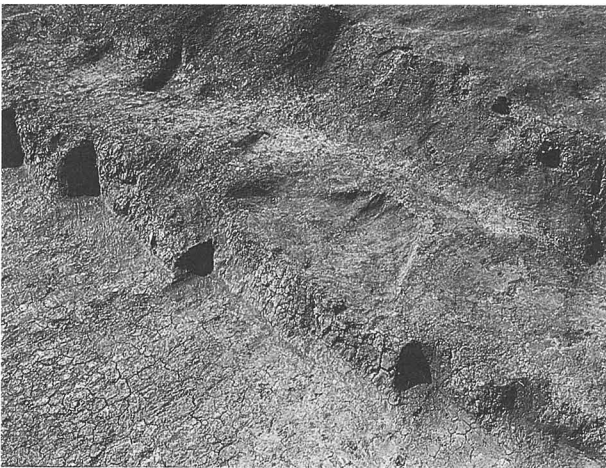
17. 2号住居跡 (上が西)



18. 3号住居跡（上が西）



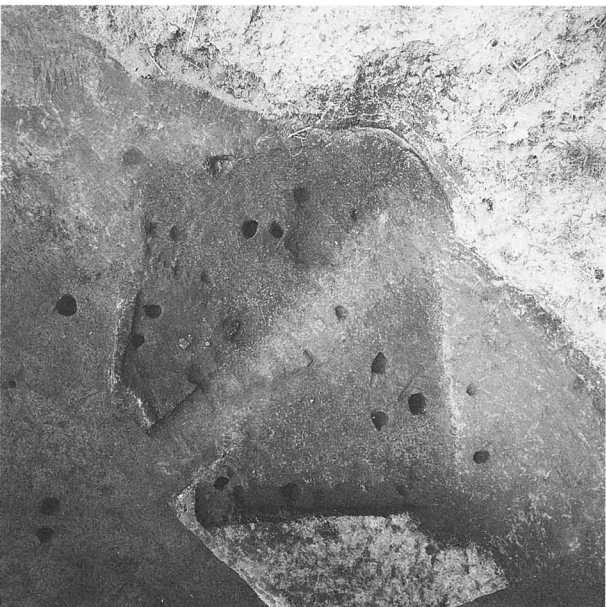
19. 3号住居跡出土石器



20. 4号住居跡（東より）



21. 5号住居跡（上が西）



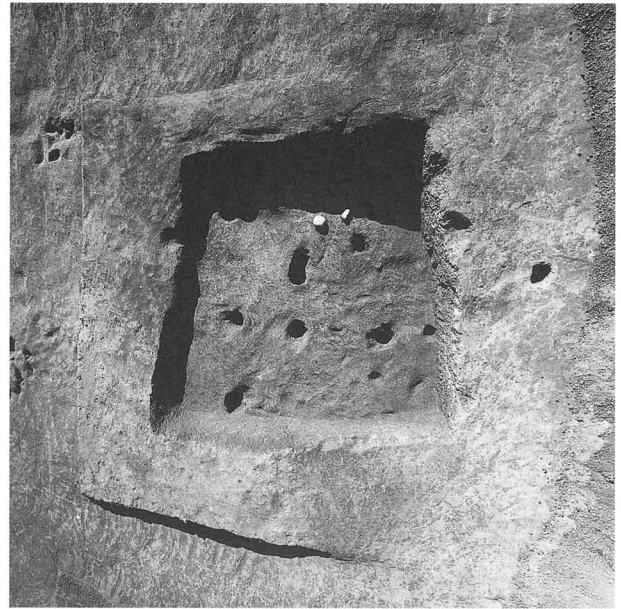
22. 6号住居跡（上が西）



23. 7号住居跡（上が西）



24. 8・9号住居跡（上が西）



26. 8号住居跡（上が西）



25. 8・9号住居跡（東より）



27. 9号住居跡（上が西）



28. 10号住居跡（上が西）



29. 10号住居跡（東より）



③ 時期不明

土坑

土坑は2基を検出したが、出土遺物がなく時期等は特定できない。1号土坑は、浅い部分に焼土や炭が堆積し、2号は斜め下方に掘り込まれ、端部に焼土や炭が付着する。

柱穴

多数の柱穴を検出したが、掘立柱建物に約5軒程復元した。多くは1間×1間、1間×2間の単純な構造で、遺物の出土もない。

焼土集中部

一部を除き、掘り込みはなく、焼土が若干堆積する程度である。遺物の出土はない。

溝状遺構

A区西側で3ヶ所の溝状遺構を検出したが、時期を特定できる遺物の出土はない。

④ 中近世

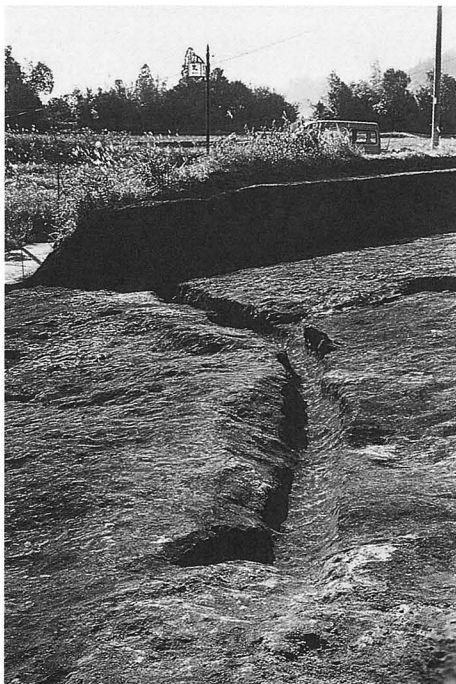
陶磁器や砂岩製の砥石片 (h)、寛永通宝 (i) 等が出土している。埋土中の出土例が多い。



30. 1号土坑 (西より)



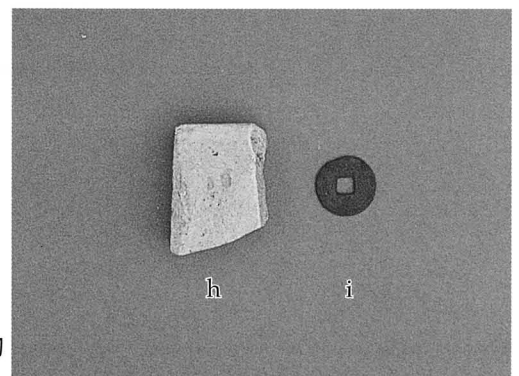
31. 2号土坑 (北東より)



33. 1号溝状遺構 (北より)



32. 焼土 (南東より)



34. 中近世出土遺物

### Ⅲ．おわりに

今回の調査で検出された遺構は、旧石器時代と縄文時代早期の礫群各1ヶ所、古墳時代の住居跡10軒、時期不明の溝状遺構3ヶ所、中世を含めた土坑2基、焼土・柱穴多数である。遺物は各時代にわたって出土しているが、量的に多くはない。

旧石器時代の遺物集中ヶ所は今回も検出されず、包含層中より数点の石器が出土したのみであった。

縄文時代でも、早期の土器・石器が若干出土するに止まった。

当地域における弥生時代～古墳時代に属する住居跡の発見例は、今回の調査では10例である。平面形はほぼ方形で、主柱穴は4本が主体である。張出部を有する住居跡が2例、住居跡のコーナー部分のみの検出例が1例あった。また、斜面部に2軒並列して検出した。これまでやせ尾根の端部に並ぶように営まれた住居跡例はあったが、当地域においては早中・早下地区を合わせると50軒近くになる。最近、五ヶ瀬川流域とくに山間部における弥生時代～古墳時代の住居跡の調査例が増加している。その多くは、急斜面や狭小な尾根の端部といった今までに考えられなかった地形に住居跡が営まれている。これまでの調査で、このような地形にも目を向けさせるきっかけになったことは、ひとつの成果であった。

古代については遺構・遺物共に断片的で他の時代に比べて極端に少なく、不明な点が多いのが実状である。中近世も同様である。

各時代の遺物が少量であるが、地形を選ばず出土していることは、条件のよい地形であれば、生活・生業空間として利用せざるを得なかった当地域の特徴を現わしてもいえるとも言えよう。今後は、個々の住居跡の構造的解明や相互の関係について追及することはもちろんであるが、当時の環境などにも目を向けていく必要がある。

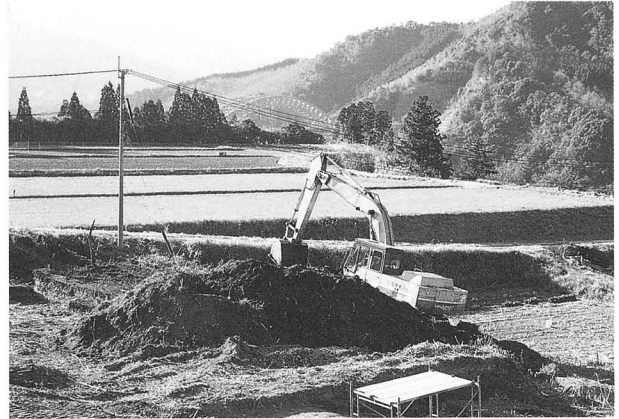
県営圃場整備事業に伴う速日峰地区遺跡の発掘調査は今年で最終年を迎えるが、一連の調査によって新資料や新知見がもたらされ、これまで空白地帯だった当地域の歴史の解明に大きく貢献しているものの、新たな発見によって派生した問題も少なくない。また、調査が断片的で期間の確保も十分でなく、消化不良のまま調査に追われて、現地における問題の抽出、深化を十分に行うことが出来ずに終わっているのが現状である。今後は、本報告書に向けて、これらを深化させていきたい。

# 報告書抄録

フリガナ	ハヤヒノミネチクイセキ							
書名	はやひのみねちくいせき 速日峰地区遺跡							
副書名	平成10年度県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅶ							
シリーズ名	北方町文化財報告書							
シリーズ番号	第13集							
編集者名	小野信彦							
編集機関	北方町教育委員会							
所在地	ひがしうすきぐんきたかたちょう 宮崎県東臼杵郡北方町卯682番地							
発行年月日	平成11年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はやひのみねちく 速日峰地区 いせき 遺跡	ひがしうすきぐん 東臼杵郡 きたかたちょうみ 北方町巳	45426	5			1998.9.1～ 1999.3.19	18,000	県営圃場整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
はやひのみねちく 速日峰地区 いせき 遺跡	古墳時代 及び中世 の集落跡	旧石器時代 縄文時代早期 古墳時代前期 中世		竪穴住居跡	10軒	旧石器時代剥片 縄文土器・石鏃 土師器・須恵器 寛永通宝		作業場を意識させる 竪穴住居跡の張 出部と砂岩製の棒 状礫器
				掘立柱建物	5軒			
				溝状遺構	3基			
				土坑	2基			



伐開作業状況



重機による表土剥ぎ状況



掘り下げ状況



空中写真の為の清掃作業状況



掘り下げ状況



住居跡掘り下げ状況

### 35. 発掘調査の1コマ

# 速日峰地区遺跡

北方町文化財報告書

第13集

平成11年 3月31日

発行 北方町教育委員会

〒882-0192  
宮崎県東臼杵郡北方町卯682

印刷 明巧堂印刷株式会社

〒882-0063  
宮崎県延岡市古川町82-10